

# 疾患を持つ子ども達への 夢チャレンジサポートプロジェクト

代表者 岡本 幸恵 (医学部看護学科 4 年)

## 1. 目的と概要

健康な子ども達ならば、遊びを通して様々なことを学んだり、ストレスを発散したりすることができます。しかし、病気を持つ子どもたちは、病状や治療による制限がたくさんあり、ストレスを蓄積しています。そこで、疾患を持つ子どもたちが入院中でも退院しても疾患と上手く付き合いながら、今そして将来に対して夢を持てるようにサポートすることを提案しました。

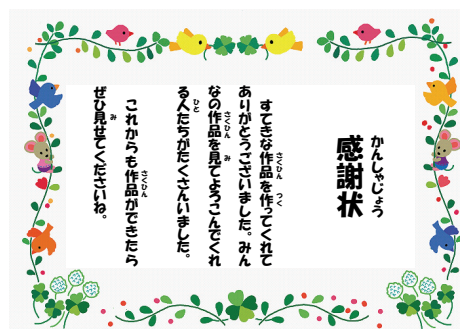
## 2. 実施期間 (実施日)

平成 20 年 6 月 1 日 から 平成 21 年 3 月 31 日まで

## 3. 成果の内容及びその分析・評価等

このプロジェクトの具体的な活動は大きく分けて 2 つです。1 つは入院している子ども達へのサポート、もう 1 つは地域で生活している疾患を持った子ども達へのサポートです。

入院している子どもたちへのサポートとして、花火大会、クリスマス会への参加、作品展のお手伝い、病院内探検隊をすることができました。これらのことはすべて、香川大学医学部付属病院でさせていただきました。花火大会やクリスマス会、作品展は小児科病棟で計画されていることで、その中で学生にでもできる準備や花火をする子どもの見守り、作品展の飾り付けなどをさせていただきました。作品展での活動は、飾り付け以外に作品を展示してくれた子どもたちに形に残るもので感謝の意を伝えるために感謝状を作りました。感謝状の裏には、病室から出ることができず、自



分の作品が飾られているのを見ることができない患児さんもいるので、写真を印刷して渡しました。患児さんや病棟の看護師の方々に、喜んでいただきました。病院内探検隊では、実施するまでの協力していただく看護師、検査技師などの病院スタッフの方々への説明や了解を得ることが大変でした。放射線部の探検に行くということで、病院のシステムをほとんど知らない私たち学生は、スタッフの方々と話し合いを重ねていくことで、病院の事情を考慮した上で探検隊を行うことが出来ました。参加してくれた患児さんは、行くことを大変楽しみにしており、探検中もワクワクした様子を見せてくれました。医師からは、今後も継続することを考え、放射線部だけでなく、給食部での探検も考えてほしいという意見をいただくことができました。



地域で生活している疾患を持った子どもたちへのサポートとして、「小児がんの子どもを持つ家族の会」との交流がありました。9月にはサマーキャンプが行われ、その会の方々のお手伝いをしたり、子どもたちに遊びを提供しました。提供した遊びは、ウォークラリーやしっぽとりゲーム、ビンゴゲーム、スイカ割りなどです。子どもたちは、元気いっぱい走ったり、プロジェクトの学生たちと遊んだり、話をしたり、笑顔いっぱいでした。サマーキャンプ終了後には、家族の方々からお礼の言葉をいただくことができました。「小児がんの子どもを持つ家族の会」のメンバーの方とは、サマーキャンプ後も交流をさせていただいています。メンバーの方々の交流会や講演会に参加させていただいています。交流会では、患児さんやご家族の方々の生の声を聞くことができ、机上での勉強や実習だけでは学ぶことができないことを学ぶ機会となっています。

#### 4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

まず、ボランティア活動をさせていただいた香川大学医学部附属病院では、私たちが患児さんの見守りやイベントのお手伝いをすることで、看護師さんたちの負担を軽減することができたと思います。

花火大会など病院内のイベントに参加したことで、子どもたちに楽しいと思ってもらえたと思います。作品展では感謝状をもらったことで、作品を展示してよかったと感じてもらえていると思います。病院内探検隊では、いつも過ごしている病室から患児さんが出ていけることで、気分転換ができたと考えられます。入院することが、痛い注射や検査を受け、楽しいことがないという印象ではなく、入院したことで入院していない子たちが知らないことを知ることができ、その子たちとは違う経験ができたと思うことで、入院したことを少しでも肯定的にとらえることができたのではないかと考えます。病院内探検隊に参加してもらった患児さんのお母さんからは、「Aちゃんは、MRI検査を経験していたけど、他の経験したことのない子が探検に行

ってから検査を受けたりすると、恐怖心などの不快に思うことなく、検査に行くことができるんじゃないか」と、私たちが病院内探検隊の意義として考えていることを感じてもらうことができていました。

また、「小児がんの子どもを持つ家族の会」のメンバーの方々との交流を通して、医学部の学生の臨床実習に対するご家族の方々の疑問点や、様々な思いなどを聞かせていただくことができました。学生が実習に行っている時にはご家族の方々が表出することができなかったことなどを交流の場では、表出することができていたと思います。また、学生がどのような思いで実習に行っているのかなどをご家族の方々には、知っていただくことができました。

## 5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

大学の講義で学んでいることをボランティア活動を通して活かすことができました。疾患を抱えている方々とより近くで接する機会が増え、ボランティア活動を通して看護、特に小児看護で活かせるものを学ぶことができました。患児さんやそのご家族の方々との交流の時間は、私たち学生が患児さんたちからエネルギーを与えてもらう時間となり、とても有意義な時間となりました。

また、病院内探検隊などの新しいことを患児さんに提供することで、患児さんや保護者の方、協力して下さった方々からやってみてどうだったのか反応が返ってきました。その反応により、ボランティア活動として何を必要とされているのか学び、今後の活動を考えることができました。

医療に関連したボランティア活動に参加することで、医療に携わる自分の将来像について考え、これからどのような看護をしていきたいのか、医師になりたいのか考えることができました。学生自身の疾患を持つ人及びその家族の方への理解の向上につなげることができたと思います。



(クリスマス会の様子)



(病院内探検隊の様子)

## 6. 反省点・今後の抱負（計画）・感想等

反省点は、看護師や検査技師の方々と話し合いをさせていただいたことから、自分たちが勉強不足だったことに気付かされたことです。また、いろんな方々に協力していただかないと実施できない計画では、協力していただく方々のことを考慮しないといけないということです。これらの反省点から、新たに勉強し直したり、協力していただく方々との話し合いの重要性を学ぶことができたと思います。

病院内探検隊では検査室スタッフの協力により、探検しているような雰囲気を出すことができました。また、参加していただいた患児さんの保護者の方からは、患児さんが受けるであろう検査などを見学を通して知ること、その後検査を受けるときの苦痛が軽減されるだろうという感想をいただきました。このことからプレパレーションの必要性を感じました。患児さんや保護者の方がその必要性を感じているのであれば、今後も病院内探検隊のような活動を継続していくことが必要だと思います。プロジェクトのメンバーは、今後もこの活動を続けていきたいと思っています。そして、活動内容をよりよいものにして、患児さんやご家族の方々に提供していきたいです。

このプロジェクトを通して、私達学生が患児さんやそのご家族の方々との交流からエネルギーをいただいたことによって、これから医療者として頑張っていきたいという気持ちでいっぱいになりました。このプロジェクトを通して学んだことを活かして、患者さまに医療を提供していきたいと思っています。

## 7. 実施メンバー

代表者	岡本 幸恵	(医学部4年)		
構成員	橋本 絢	(医学部4年)	安藤 未直	(医学部3年)
	泉阪 季美子	(医学部3年)	浦上 美加子	(医学部3年)
	川地 歩美	(医学部3年)	黒田 千恵	(医学部3年)
	高橋 優美	(医学部3年)	藤原 唯佳	(医学部3年)
	水本 春菜	(医学部3年)	森 園子	(医学部3年)
	柳田 華子	(医学部3年)		